

12月FOMCと債券・為替市場の見通し

情報提供資料



12月FOMC結果要旨：7年ぶりとなるゼロ金利解除を決定

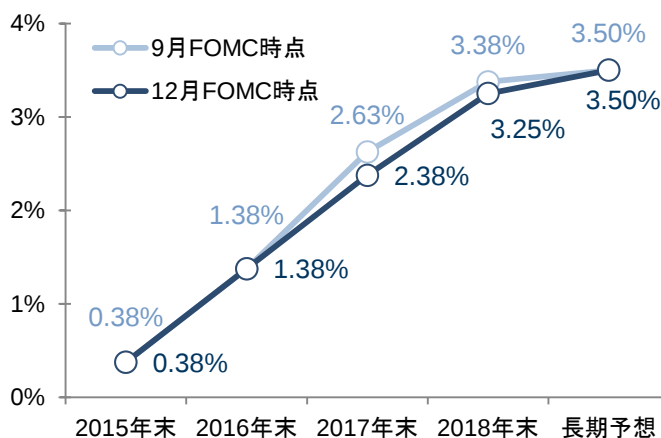
政策金利の引上げを決定

- FRB(米連邦準備制度理事会)は、12月16日のFOMC(米連邦公開市場委員会)で、政策金利であるFF金利(フェデラル・ファンド)の誘導目標を0.25%引上げ0.25~0.50%とすることを全会一致で決定しました。声明文では「労働市場の著しい改善が進み、インフレ率が中長期的に目標の2%に向けて加速するとの確信を得た」とし、2008年の金融危機に対処した前例のない金融緩和策の歴史的転換を発表しました。

焦点は今後の利上げペース

- FOMC参加者による政策金利見通しでは、2016年末の予想(中央値)は1.38%と前回9月の予想値と一致しています。これは0.25%の引き上げであれば、年4回の利上げが実施されることを示唆しています。イエレンFRB議長は、今回の利上げ後も金融政策姿勢は引き続き緩和的であると述べ、今後の利上げについても「緩やかな」ペースとなる見通しを強調しました。

政策金利見通し(FOMC参加者の予測中央値)

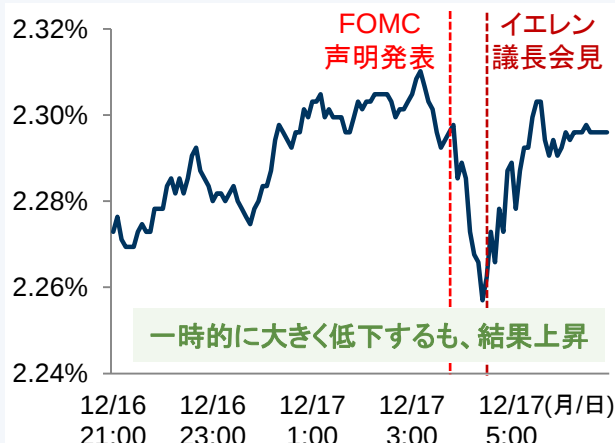


出所：ブルームバーグ 時点：2015年12月16日、2015年9月17日

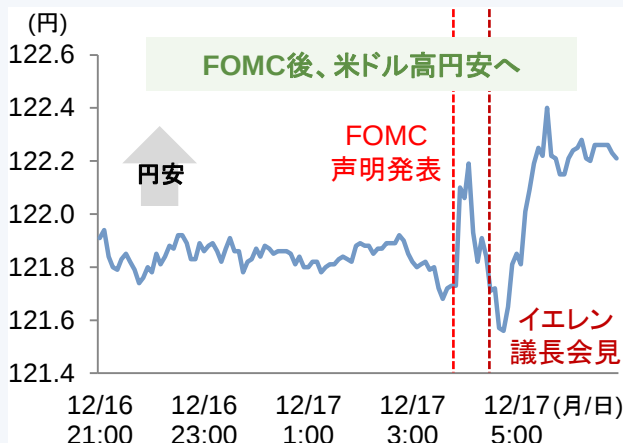
今後の債券・為替市場の見通し

- 市場参加者は概ね今回の利上げを織り込んでいたため、今回の利上げに伴う大きなサプライズは回避された形となりました。米国債利回りはFOMC声明文の公表直後、一時的に大きく低下しましたが、イエレン議長の会見後は利上げ決定の発表に素直に反応し、米長期金利は上昇、為替市場では米ドル高円安の展開となりました。
- 今回の利上げ開始の決定はFRBの米国経済成長に対する自信の表れであり、リスク資産と投資家心理にとっては全般的にポジティブな内容となります。当社では、グローバルな金融政策の乖離から米金利は相対的に上昇すると見ています(対ユーロ圏)。また、為替市場については、①FRBの利上げペースが穏やかなものにとどまると予想されること、②過去18ヵ月にわたり米ドルの上昇基調が続いたこと、③欧州と日本の金融緩和策が積極的でないことなどを背景として、米ドルの動向を注視する必要があると考えています。

【米国債 利回り推移】



【米ドル円為替レート】



出所：ブルームバーグ 時点：2015年12月16日、2015年12月17日(5分足、日本時間で表示)

Goldman Sachs

Asset Management

本資料は、情報提供を目的としてゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(以下「弊社」といいます。)(が作成した資料であり、特定の金融商品の推奨(有価証券の取得の勧誘)を目的とするものではありません。本資料は、弊社が信頼できると判断した情報等に基づいて作成されていますが、弊社がその正確性・完全性を保証するものではありません。本資料に記載された過去のデータは、将来の結果を示唆あるいは保証するものではありません。本資料に記載された見解は情報提供を目的とするものであり、いかなる投資助言を提供するものではなく、また個別銘柄の購入・売却・保有等を推奨するものでもありません。上記は経済や市場等の過去のデータおよび一時点における予測値であり、将来の動向を示唆あるいは保証するものではありません。経済、市場等に関する予測は資料作成時点のものであり、情報提供を目的とするものです。予測値の達成を保証するものではありません。記載された見解は資料作成時点のものであり、将来予告なしに変更する場合があります。本資料の一部または全部を、弊社の書面による事前承諾なく(1)複写、写真複写、あるいはその他のいかなる手段において複製すること、あるいは(2)再配布することを禁じます。

© 2015 Goldman Sachs. All rights reserved. <25288-OTU-130518>